

第2章 千歳市農業の現状と課題

千歳市農業の現状

1 農業の現状

千歳市は、農業基盤整備をもとに大規模経営と近代化を進め、石狩管内第1位の生産額を誇る農業生産地帯となっており、小麦、てん菜、大豆などの畑作、はくさい、キャベツ、ブロッコリーなどの野菜生産、酪農、養豚、養鶏などの畜産が盛んに行われています。

しかしながら、農業者の高齢化や後継者不足などにより生産力の低下が懸念されており、農業の体質強化や中核農家の育成、後継者や新規就農者の育成・支援などに広域的に取り組む必要があります。

一方、千歳市では北海道内の大消費地である札幌圏との優れた近接性、市内に新千歳空港やJR、道央自動車道を配し、苫小牧港も30分圏内という交通条件の優位性を活かし、農畜産物の高付加価値化や地域ブランドの確立への取組、農商工連携による地域活性化の動きが広がっています。またグリーン・ツーリズム^{*}が注目される中、千歳市においても直売所や農家レストラン、観光農園、農業体験などの観光型農業が盛んに行われており、これらの取組については、今後も大いに推進していく必要があります。

さらに、輸入農畜産物が増大する中、消費者が求める安全・安心な農畜産物の供給が求められており、人と環境にやさしい農業経営の推進が必要となっています。

2 林業の現状

千歳市の森林・原野は全市域の55%を占めており、そのうち約85%は市街地西部から国立公園支笏湖地域まで広がる国有林になっています。

千歳市では、森林保全のための各種施策を推進していますが、民有林にあっては、長期にわたり木材価格が低迷する中で、除間伐^{*}などの施業が難しくなっています。また、担い手不足も続いており、林業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

近年、環境保全の観点から、温暖化防止、水源かん養^{*}、災害防止といった国土保全の公益的機能を持つ森林の役割が重要視されており、千歳市においても森林の整備と保全に努めることが必要となっています。

千歳市農業の特徴

千歳市の農業は、札幌圏や空港との優れた近接性を活かした都市型農業の特性やグリーン・ツーリズム^{*}の進展と、大規模経営が行なわれる純農業地域の特性を合わせ持っています。

計画策定に当たっては、このような地域の特徴を活かし、改善すべき課題を整理し、農業振興の基本計画を定めるものとします。

1 都市型農業の進展

千歳市の農業は、札幌圏に近接することから都市型農業の側面を有しています。JA 道央が中心となり、札幌圏への販路拡大を進めており、今後さらなる販路拡大が期待できます。また、農産物直売や観光農業の取組が見られ、千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会が組織されるなど、体制づくりも進展しています。30分圏内に苫小牧港を抱え、空港、鉄道、高速自動車道が密接に結びつく交通拠点という特性を活かしながら、今後さらに都市との交流が進展する可能性を有しています。

2 企業と連携した農業

加工用スイートコーン、青汁の原料となるケール^{*}、醤油メーカー向けの小麦、製薬メーカー向けの薬草の生産など、企業と連携した農業が行われています。これらは農業者に安定した取引をもたらすというメリットがあります。また、企業の農業への参入は、遊休農地^{*}の活用や、担い手の確保という面からも必要となっています。

3 畑作の大規模化

畑作農家、畑作野菜生産農家の経営面積は道東地域に匹敵する規模で、今後、さらに規模の拡大を指向する農業者が多く、農地の取得を効率的に進めていくことが重要となっています。

4 多様な作物の栽培

農業生産は多岐に渡り、畑作のみならず、水稻、だいこん、キャベツ、はくさい、かぼちゃ、ほうれんそう、ねぎ、ハスカップなど、様々な作物を生産しています。近年は農業者の栽培技術が向上し、ブロッコリーをはじめとする多様な農作物の生産が増加しています。

5 耕畜連携^{*}に適した環境

耕種農業と酪農・畜産業がそれぞれ盛んという特徴を有しており、耕畜連携^{*}の推進に取り組みやすい環境にあります。現状ではたい肥と麦稈^{ばっかん}の交換は個人農家の相対で行ってお

り、エコファーマー^{*}認定農家の割合は2割を超え、北海道の平均と比較して高い水準にあります。

6 充実した広域連携体制

J A道央及び(財)道央農業振興公社は、千歳市、江別市、恵庭市、北広島市の4地域を所管しており、農業者や新規就農者の研修、農地貸借の調整などの農業支援に広域的に取り組む基本的な体制が整っています。



計画策定に関わる諸指標

1 農家戸数

農家戸数の予測について

(1) 農家戸数減少のトレンド

最近の22年間(1989年～2010年)の農家戸数減少の傾向に指数曲線を当てはめ、これによる推計を行った結果は、平成27年(2015年)204戸、平成32年(2020年)170戸と予測されます。これらは、平成22年(2010年)の237戸を100%とすると、平成27年度は86.0%、平成32年度は71.8%となります。

(2) 農業者意向アンケート調査結果(経営者年齢)に基づく予測

平成21年に実施した農業者意向アンケート調査は203戸(61.3%)の農家が回答しています。

平成27年(2015年)～「経営主年齢70歳以上で後継者なし」10.8%と「同65歳～69歳後継者なし」5.4%の半数が離農するものとした場合、204戸と見込まれます。

平成32年(2020年)～「経営主年齢65歳以上で後継者なし」16.3%と「同60～64歳後継者なし」7.4%の半数が離農するものとした場合、189戸と見込まれます。

これらは、平成22年(2010年)の237戸を100%とすると、平成27年度は86.0%、平成32年度は79.7%となります。

(3) 農業者意向アンケート調査結果(今後の経営計画)に基づく予測

平成27年(2015年)～「今後5年くらいの間に農業をやめたい」とする回答が7.9%あり、これに従えば218戸と見込まれます。これは平成22年(2010年)の237戸を100%とすると、平成27年度は92.0%となります。

以上の予測結果を踏まえ、農家戸数の減少傾向が現状のまま推移していくとすれば、今後10年で200戸を割り込むことが考えられます。農業者意向アンケート調査の後継者の有無に関する設問で「他産業に従事している、または就学中でわからない」との回答が51名(25.1%)あり、こうした後継者予備軍を見込んで、農家戸数を、平成27年(2015年)204戸、平成32年(2020年)189戸と予測しました。

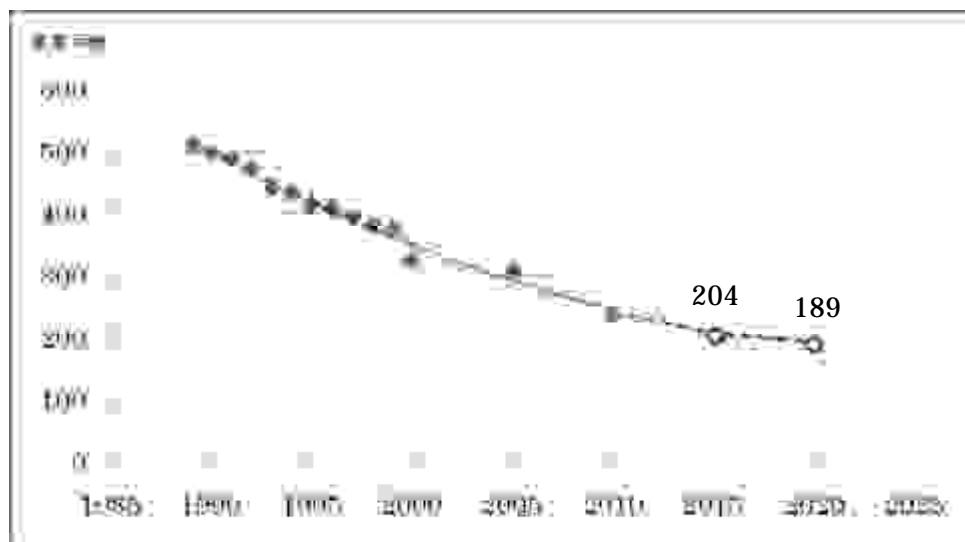
| | 1999年 (平成11年) | 2005年 (平成17年) | 2010年 (平成22年) | 2015年 (平成27年) 推計値 | 2020年 (平成32年) 推計値 |
|------|------------------|------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 農家戸数 | 374戸 | 325 | 237 | 204 | 189 |

注) 資料は農林業センサス・千歳市資料

千歳市の農家戸数の推移

| 年度 | | 農家戸数 合計 | 専業 | 第1種 兼業 | 第2種 兼業 | 農業 従事者数 | 農家1戸 あたり 人口 | 千歳市 総人口 |
|------|-------|------------|-----|-----------|-----------|------------|-------------------|------------|
| 1989 | 平成元年 | 508 | 283 | 130 | 95 | 2,193 | 4.32 | 77,306 |
| 1990 | 平成2年 | 499 | 279 | 124 | 96 | 2,126 | 4.26 | 77,905 |
| 1991 | 平成3年 | 489 | 269 | 126 | 94 | 2,059 | 4.21 | 78,559 |
| 1992 | 平成4年 | 472 | 263 | 113 | 96 | 1,996 | 4.23 | 80,022 |
| 1993 | 平成5年 | 441 | 232 | 132 | 77 | 1,860 | 4.22 | 81,632 |
| 1994 | 平成6年 | 433 | 242 | 102 | 89 | 1,863 | 4.30 | 82,680 |
| 1995 | 平成7年 | 415 | 213 | 123 | 79 | 1,701 | 4.10 | 84,048 |
| 1996 | 平成8年 | 409 | 227 | 106 | 76 | 1,728 | 4.22 | 84,974 |
| 1997 | 平成9年 | 396 | 221 | 105 | 70 | 1,650 | 4.17 | 86,017 |
| 1998 | 平成10年 | 381 | 193 | 110 | 78 | 1,563 | 4.10 | 87,208 |
| 1999 | 平成11年 | 374 | 199 | 101 | 74 | 1,518 | 4.06 | 87,742 |
| 2000 | 平成12年 | 325 | 175 | 100 | 50 | 1,215 | 3.70 | 88,126 |
| ... | ... | | | | | | | |
| 2005 | 平成17年 | 308 | 180 | 92 | 36 | 765 | 2.50 | 91,242 |
| ... | ... | | | | | | | |
| 2010 | 平成22年 | 237 | | | | | | 93,635 |

千歳市農家戸数の予測推移



注) 農家戸数、農家人口は、北海道農業基本調査、農業センサスによる。

2 耕地面積と作物別作付面積

千歳市の耕地面積は、5年ごとに2%程度減少しています。田面積に大きな推移はなく、畑面積の減少が数値に反映されています。品目別にみると、近年では大豆の作付面積が伸びています。

(単位：ha)

| | 1990年 (平成2年) | 1995年 (平成7年) | 2000年 (平成12年) | 2005年 (平成17年) | 2009年 (平成21年) |
|----------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|
| 耕地面積 | 6,820 | 6,680 | 6,550 | 6,240 | 6,120 |
| 田面積 | 679 | 647 | 646 | 643 | 642 |
| 畑面積 | 6,140 | 6,030 | 5,910 | 5,590 | 5,480 |
| 水稲 | 395 | 352 | 286 | 176 | 157 |
| 小麦 | 1,490 | 1,280 | 1,010 | 1,240 | 1,200 |
| 小豆 | 789 | 686 | 555 | 511 | 377# |
| 大豆 | 121 | 132 | 340 | 214 | 358 |
| 菜豆 | 135 | 119 | 118 | 65 | 46# |
| 馬鈴薯 | 122 | 184 | 173 | 171 | 162 |
| 甜菜 | 799 | 807 | 761 | 640 | 634 |
| スイートコーン | 142 | 155 | 202 | 160 | 160 |
| かぼちゃ | 69 | 90 | 84 | 48 | 23# |
| だいこん | 91 | 42 | 30 | 51 | 42# |
| はくさい | 37 | 41 | 26 | 28 | 23 |
| キャベツ | 17 | 42 | 35 | 24 | 23 |
| アスパラガス | 34 | 24 | 4 | 2 | 10# |
| ハスカップ | 38 | 29 | 25 | 25 | 20# |
| 牧草 | 1,760 | 1,680 | 1,950 | 2,010 | |
| 青刈トウモロコシ | 610 | 619 | 425 | 226 | |

注) 資料は農林水産統計年報 #は平成19年度JA道央千歳支所出荷実績

3 家畜の飼養頭羽数

平成 22 年の千歳市の家畜の飼養頭羽数は、乳用牛、肉用牛ともに、平成 7 年に比べ、減少しています。豚は平成 2 年に 15,000 頭を超えていましたが、平成 22 年では 9,000 頭を割り、40%以上の減少となっています。一方、採卵鶏は平成 2 年から平成 12 年にかけて約 1.5 倍増加しています。

(単位：頭、千羽)

| | 1990 年 (平成 2 年) | 1995 年 (平成 7 年) | 2000 年 (平成 12 年) | 2005 年 (平成 17 年) | 2010 年 (平成 22 年) |
|-------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 乳用牛 | 6,720 | 5,970 | 6,080 | 5,870 | 4,988 |
| 2 歳以上 | 4,140 | 3,490 | 4,160 | 3,880 | 3,185 |
| 肉用牛 | 2,650 | 2,796 | 2,294 | 2,310 | 2,319 |
| 豚 | 15,060 | 10,708 | 11,476 | 10,616 | 8,464 |
| 採卵鶏 | 1,052 | 1,307 | 1,963 | 1,675 | 1,587 |

注) 資料は農林水産統計年報及び家畜飼養状況調査

4 農業粗生産額

農業粗生産額^{*}及び農家 1 戸当たりの生産農業所得は増加傾向にあります。畜産の粗生産額が、全体の粗生産額を引き上げていると思われます。耕地 10a 当たりの生産農業所得は、平成 7 年から平成 17 年にかけて、19%増加しています。

(単位：百万円、農家 1 戸当たりの生産農業所得・耕地 10a 当たりについては千円)

| | 1990 年 (平成 2 年) | 1995 年 (平成 7 年) | 2000 年 (平成 12 年) | 2005 年 (平成 17 年) |
|---------------------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------------|
| 農業粗生産額 [*] | 10,392 | 9,070 | 11,130 | 13,630 |
| 耕種 | 3,749 | 3,649 | 3,290 | 3,410 |
| 畜産 | 6,643 | 5,421 | 7,840 | 10,220 |
| 農家 1 戸当たりの生産農業所得 | 6,124 | 6,928 | 8,441 | 11,346 |
| 耕地 10a 当たり | 45 | 43 | 44 | 51 |

注) 資料は農林水産統計年報

千歳市新農業振興計画の評価と課題

千歳市は、平成 13 年度から「千歳市新長期総合計画」と連動して、「千歳市新農業振興計画」に基づき、地域農業振興と農業基盤・農村環境整備を進めてきました。

この「千歳市新農業振興計画」では、農業・農村を取り巻く諸情勢に対応し、千歳市の特色を最大限に活かした地域農業振興の基本方向として、交通要衝都市型農業の確立、農業経営の体質強化、農業基盤の整備、都市と農村の交流、特定地域の振興を柱に設定しました。

「千歳市農業振興計画(第3次)」の策定に当たっては、これまでの「千歳市新農業振興計画」における主要施策の方向と達成度を総合的に評価し、今後活かすべき課題を抽出し、この課題を千歳市農業振興計画(第3次)の基本方向、主要施策及び施策の推進方向に反映することとしました。

1) 交通要衝都市型農業の確立 「農業経営の強化」「都市と農村の交流促進」「農業の担い手の育成・確保」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|---|--|---|
| 農畜産物を生かした特産品の振興 ・千歳ブランド農作物の開発 ・千歳ブランド地域特産品の開発 | ・ハスカップは千歳ブランドとして一定の評価を得ていますが、需要量が伸び悩む中、競合産地も増え、生産面で機械化が困難などの課題があります。JA道央青年部では中長うずら豆のブランド化に向けた取組を進めていますが、現状では販路が本州に限定されており、千歳産としての認知は低い状況となっています。 ・「千歳の農産物加工品」と言える明確な特産品は育っておらず、今後は、特産品開発の気運づくりや、開発した加工品のPRが課題となっています。 | 農産物のブランド化・高付加価値化の推進 ・農商工連携による特産品開発 ・地元特産品のPRの推進 |

1) 交通要衝都市型農業の確立 「農業経営の強化」「都市と農村の交流促進」
「農業の担い手の育成・確保」

(つづき)

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|---|--|
| <p>農産物流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の販路の拡大と多様な販路の追求 ・地場農産物の地域内消費の推進 ・学校給食・公的機関への地場農産物の供給 | <ul style="list-style-type: none"> ・札幌圏への量販店にインスタショップを設置するなどの取組が行われていますが、販路が限られています。地域の特徴付けをするなどにより、販路を拡大することが必要となっています。 ・地産地消、安全・安心の意識の高まりから、農業者による直売所の集客は増加傾向にあります。 ・学校給食への地元産食材供給については、安定供給と価格が課題となっています。 | <p>地理的優位性を活かした販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者や小売業者のニーズに対応した取組の推進 <p>都市交流と結び付いた農業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市住民との交流と農業理解の促進 |
| <p>集約型農業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参入法人支援と地域農業調整 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケールや薬草など、企業との契約栽培が行なわれていますが、農業参入した企業の中には採算が合わず撤退した例もあります。このため、農業者からは異業種参入に慎重な意見があり、どのように地域内の合意形成を図っていくかが課題となっています。 | <p>生産技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業のニーズに対応した栽培技術の確立・普及 <p>多様な担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異業種参入の受入体制の構築 |

2) 農業経営の体質強化 「農業経営の強化」「農業の担い手の育成・確保」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|---|---|--|
| <p>総合的な農業システムの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な農業システムの確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断システムや、農地情報システムが稼働しています。 ・これらシステムを活かした農業生産の効率化を図ることが課題となっています。 | <p>生産技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を踏まえた栽培技術の向上 ・企業のニーズに対応した栽培技術の確立・普及 |

2) 農業経営の体質強化 「農業経営の強化」「農業の担い手の育成・確保」
(つづき)

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|---|--|---|
| <p>農業経営の改善・近代化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作経営改善 ・畑作経営改善 ・野菜・園芸作経営の改善 ・酪農・畜産経営改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・稲作については、気候や土壌の面で不利な条件にあり、地域特性を踏まえた栽培技術の向上が課題となっています。 ・畑作については、輪作体系[*]の維持・改善に向けた新規作物や緑肥作物[*]などの栽培技術の導入・普及、低コスト生産に必要な栽培技術の向上、規模拡大への対応や労働力の確保などが課題となっています。 ・野菜や馬鈴しょの生産については、連作障害[*]や病虫害発生への対処が必要とされています。 ・酪農については、生乳の生産能力が高い農業者が多い状況にありますが、さらなる生産技術の向上、飼料自給率[*]の向上、酪農ヘルパーの活用促進が必要とされています。 ・市場ニーズに柔軟に対応するため、新たな作物の栽培技術の確立・普及を進めていくことが必要となっています。 | <p>生産技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を踏まえた栽培技術の向上 ・企業のニーズに対応した栽培技術の確立・普及 <p>効率的な農業経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化・共同化の推進 ・労働力不足の解消 |
| <p>農業振興公社の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興公社の設立 ・農業振興公社活動の活性化 ・農業振興会の活動高度化 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年に、千歳、江別、恵庭、北広島の各市、JA、農業委員会により、財団法人道央農業振興公社を設立しました。 ・道央農業振興公社では、担い手の育成、農用地の利用調整、農業労働力効率化の支援事業などを広域的に行っています。 ・道央農業振興公社の機能を活かし、多様な担い手の育成、農用地の効率的利用などに向けた取組を積極的に推進することが必要となっています。 | <p>効率的な農業経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地利用調整の推進 <p>認定農業者[*]などの維持・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家経営力向上に係る支援 ・後継者確保の促進 <p>多様な担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の育成・支援 |

2) 農業経営の体質強化

「農業経営の強化」「農業の担い手の育成・確保」

(つづき)

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|---|---|
| <p>営農指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的営農指導展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営改善支援センターでは、意欲と能力のある認定農業者[*]を育成・確保するための実践的営農指導を実施しています。 ・生産技術の向上に JA や農業改良普及センターが中心となって取り組み、プロッコリーなどの野菜の産地形成が進められています。 ・農業者には青色申告が浸透しており、今後は経営指標を用いた分析力の向上が課題となっています。 | <p>生産技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を踏まえた栽培技術の向上 ・企業のニーズに対応した栽培技術の確立・普及 <p>認定農業者[*]などの維持・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家経営力向上に係る支援 |
| <p>市営牧場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営牧場規模拡大、運営効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ・道央農業振興公社は指定管理者として市営牧場の効率的な管理運営を行っています。 ・牧場面積の拡張などを行ってきましたが、利用頭数が増加する中、施設の老朽化や冬期の畜舎が手狭になるなど、サービスの充実に向けた、適切な設備の整備・補修が課題となっています。 | <p>効率的な農業経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営牧場の整備・充実 |
| <p>中核農家の育成と農業法人の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善認定農業者[*]に対する営農支援 ・農業法人の設立誘導と運営管理支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・中核農家の育成に関しては、千歳市の農業者の約 65% が認定農業者[*]となっています。 ・JA では、農作業に必要な労働力の確保に向け、アグリサポート事業[*]を展開しており、需要に対応できる事業の拡充が求められています。 ・法人件数は 10 年前と比較して横ばいであり、複数農家による法人も少ない状況にあります。今後はこれらの取組に関する意識啓発や実現に向けた課題の検討が必要となっています。 | <p>効率的な農業経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化・共同化の推進 ・労働力不足の解消 <p>認定農業者[*]などの維持・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家経営力向上に係る支援 |

2) 農業経営の体質強化 「農業経営の強化」「農業の担い手の育成・確保」
(つづき)

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|---|--|
| <p>担い手の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の担い手育成・確保 ・女性農業者の経営参画促進 ・高齢農家の活動支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・農家戸数の減少に歯止めがかからない状況となっています。 ・中核的な農業者はもとより、高齢農業者、女性農業者、新規就農者などの多様な担い手を育成・確保することが緊急で重要な課題となっています。 | <p>認定農業者[*]などの維持・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家経営力向上に係る支援 ・後継者確保の促進 <p>多様な担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の育成・支援 ・高齢農業者の地域への定着促進 ・女性農業者の経営参画の促進 |
| <p>生活拠点の形成と定住条件の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落機能の維持と定住者の確保 ・農村生活環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・東千歳地域農村振興基本計画に基づき、農地を活用した臨時パークゴルフ場や農家看板の設置などが行われました。 ・農村景観の良好な保全を図る地域の自発的な協働の取組を支援しています。 ・合併浄化槽[*]に関しては、平成12年から助成制度を実施し導入が進んでいます。 ・情報化の進展を踏まえ、ブロードバンド環境の整備が今後の課題となっています。 | <p>農村生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報環境の向上 ・快適な暮らしの場の整備 |

3) 農業基盤の整備 「農業経営の強化」「優良農地の確保」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|---|--|
| <p>土地基盤の整備と優良農地の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地基盤整備[*]と優良農地の確保 ・農地の利用集積、団地化・集団化 | <ul style="list-style-type: none"> ・国営、道営の土地改良事業[*]による基盤整備が進み、農地の排水不良の解消などが図られていますが、まだ十分とはいえません。基盤整備は、生産性や品質の向上に効果があることから、さらなる整備が必要となっています。 | <p>生産性の高い土地基盤整備[*]の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地基盤及び農業用水路の整備 |

3) 農業基盤の整備 「農業経営の強化」「優良農地の確保」

(つづき)

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|--|--|
| <p>(つづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良農地の保全と非農業的な土地利用 ・農地流動化の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営面積が大きいほど、団地数が増える傾向にあり、大規模化による効率性の効果を十分に享受できていない状況となっています。 ・道央農業振興公社が中心となり、農地の貸し手と借り手の調整をしていますが、農地の団地化には限界があります。今後は地域が一体となって、効率的な農地利用の推進に向けた対策を進めることが課題となっています。 | <p>(つづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な農業経営の推進 ・農地利用調整の推進 |
| <p>農業用排水施設の機能維持・増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業用排水施設の機能維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・排水路については、市所有の大型機械による整備のほか、排水愛護組合、環境保全会によって施設機能の維持が図られています。 ・施設の老朽化などにより機能低下や破損がみられ、劣化に応じた適正な改修が必要となっています。 | <p>農業用排水施設の機能維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業用排水施設の機能維持 |
| <p>農業災害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業災害の防止と公益的機能維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・風害に対する防風機能と農村景観の形成を担っている耕地防風林[*]については、定期的な巡回点検のほか、下草刈りや間伐、枝打ちなどを実施して適正な管理に努めています。 ・有害鳥獣による農業被害がみられるほか、口蹄疫[*]の発生以降、防疫[*]に対する意識が高まっています。このため、有害鳥獣被害対策や防疫[*]対策の強化が今後の課題となっています。 | <p>耕地防風林の機能維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕地防風林[*]の適正管理と多面的機能の発揮 有害鳥獣被害・防疫[*]対策の充実 ・有害鳥獣被害対策の充実 ・防疫[*]対策の充実 |

4) 農業基盤の整備 「環境と調和した農業の推進」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|--|---|
| <p>環境にやさしい農業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン農業[*]の総合的推進 ・環境保全に対する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・家畜ふん尿の地域連携循環[*]は個々の農家が相対で行っています。 ・今後は、より効率的な循環システムの構築や有機資源を活かした土づくり、低農薬・低化学肥料栽培技術のさらなる普及が必要となっています。 | <p>地域特性と環境に配慮した農業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕畜連携[*]などの推進 ・環境保全に対する取組の推進 |



5) 都市と農村の交流 「農業経営の強化」「都市と農村の交流促進」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|--|---|--|
| <p>都市交流と結びついた農業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市消費者との交流への支援 ・観光農園、農業体験、食品加工体験などへの支援 ・農産物直売活動の推進 ・市民農園の充実と整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン・ツーリズム[＊]に取り組む農業者が増えていますが、農業者によって経営力にばらつきがあり、必ずしも所得向上につながっていないことが課題となっています。 ・地産地消[＊]、安全・安心の意識の高まりから、農業者による直売所の集客は増加傾向にあります。 ・農業まつり、とりたて野菜まつり、食と農の交流会などのイベントが開催されており、今後も、内容の充実を図りながら、継続的に実施していくことが必要となっています。 ・農村を訪れる観光客が無秩序に農地に立ち入ることに対して、農業者は防疫[＊]の面で不安を抱いており、都市住民の農業への理解を深めることが課題となっています。 | <p>都市交流と結びついた農業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市住民との交流と農業理解の促進 ・グリーン・ツーリズム[＊]活動の促進 |
| <p>都市住民の需要に即した生産の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料品関連企業への原料供給 ・特産品PRと情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> ・小麦、ケール[＊]、葉草などの契約栽培が増加しています。今後も栽培技術の普及・向上への支援が必要となっています。 ・地域特産品の効果的なPRの実施が課題となっています。 | <p>食の安全・安心の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に関する情報開示・提供の推進 ・客観的指標に基づく安全・安心のブランド化 |

6) 特定地域の振興 「農業経営の強化」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|---|--|---|
| 土地利用の推進と農業との調和 ・駒里地区の農業振興策と生活環境整備 ・根志越地区の農業振興策と生活環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> 千歳川放水路計画の中止の影響を受けた駒里地区では、地域振興メニューの実現に向けた対応や、駒そば亭の整備などによる地域振興が行われています。 しかし設備投資のタイミングを逸したことによる農業経営への影響が残されています。 | 効率的な農業経営の推進 ・法人化・共同化の推進 認定農業者 [*] などの維持・育成 ・農家経営力向上に係る支援 都市交流と結び付いた農業の推進 ・都市消費者との交流への支援 |

7) 林業の振興 「林業の振興」「農業経営の強化」

| 千歳市新農業振興計画の主要施策(前計画) | 千歳市新農業振興計画の施策推進評価と本計画への課題 | 本計画の主要施策 |
|-------------------------------|---|-------------------------------------|
| 健全な森林の育成 ・森林の持つ多様な機能の整備・活用 | <ul style="list-style-type: none"> 千歳市森林整備計画[*]に従い、千歳市森林組合との連携により、民有林の保全整備を進めています。 森林の保全整備、担い手の育成・確保を進めるとともに、森林の持つ多面的機能[*]の活用を促進することが引き続き必要となっています。 | 森林の公益的機能の維持 |
| 特用林産物の振興 ・特用林産物(しいたけ)の振興 | <ul style="list-style-type: none"> 千歳市森林組合が中心となり、アロニア[*]の実やバイオクローン苗木[*]の生産販売が行われており、その普及に努めることが必要となっています。 | 農産物のブランド化・高付加価値化の推進 ・地元特産品のPRの推進 |